

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

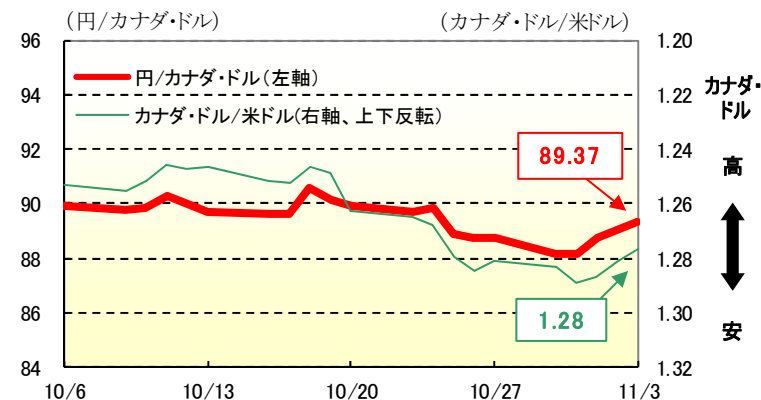
【2017年10月28日～2017年11月3日の推移】

### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は上昇し、カナダ5年国債利回りはほぼ横ばいで推移しました。

先週は、カナダでGDP(国内総生産)が発表され、市場予想を下回る結果となったことが金利低下やカナダ・ドル円の下落圧力となりました。一方で、雇用統計において、雇用者数が市場予想以上の伸びとなったことや平均賃金の上昇率が前月から加速するなど労働市場の堅調さが確認されたことが、金利やカナダ・ドル円の上昇圧力となりました。

### 【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年10月6日～2017年11月3日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

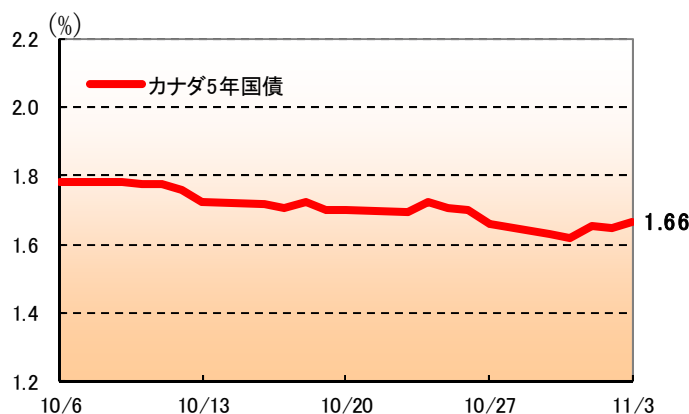
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週は、カナダ独自の材料は乏しく、他国の要因に左右されやすい展開が見込まれます。

先週、米国で税制改革法案が公表されたことから、今後の審議の行方に注目が集まりそうです。トランプ政権は法案の年内成立を目指していますが、減税に必要な財源確保策をめぐる対立点が多く、市場では審議が難航するとみられています。そのため、法案の成立確率が高まっていくにつれ、市場のリスク選好的な姿勢が強まり、米国の金利が上昇し、それに連れてカナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力も高まると考えています。

### 【カナダ 金利推移】 (2017年10月6日～2017年11月3日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>